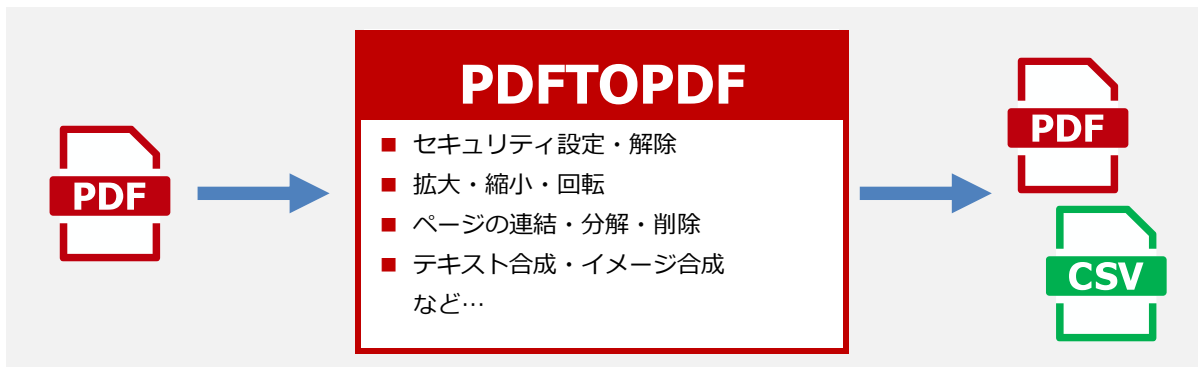


# PDFTOPDF

PDF編集プログラム PDFTOPDF 簡易マニュアル

KCS カーネルコンピュータシステム



PDFTOPDFは、入力したPDFデータに対して編集を行い、新規にPDFファイルを作成します。また、PDFのページ数や各ページのサイズ、文書中のテキストなど、PDFの情報を取り出すことが可能です。Adobe Acrobatを使用しないためAdobeライセンスが必要ありません。

## 特長

- ・ 編集機能によりグラフィックの品質が下がらない。
- ・ 多重起動対応。
- ・ セキュリティの設定、解除。
- ・ 用紙サイズの拡大、縮小、回転。
- ・ ページの連結、分解、挿入、削除、並べ替え。複数のPDFを連結して1つのPDFへ変換可能。
- ・ ページのレイアウト（2UP, 4UP, …）。
- ・ 任意の位置に白紙のページを挿入。
- ・ テキストの合成。任意の文字列と日付・ページ番号・ファイル名を合成。CSVでテキストを指定可能。
- ・ テキスト情報の抽出。各テキストの座標を取得することも可能。
- ・ フォントの置き換え。既存のテキストへフォントの埋め込み。
- ・ イメージ、バーコードの合成。ページ番号やファイル名をバーコードにして合成可能。
- ・ イメージ、イメージ情報の抽出。
- ・ ページの合成。日付印などのスタンプの合成。
- ・ PDFの単色化。ページをモノクロまたは指定した色に変換。
- ・ しおりや添付ファイルの設定。
- ・ FDFファイルの取り込み、書き出し。
- ・ ページの用紙サイズやキーワードを条件とする仕分け。
- ・ その他の情報や添付ファイルの取り出し。

## 動作環境

Windows	7, 8, 8.1, 10, 11, Server 2008, Server 2008 R2, Server 2012, Server 2012 R2, Server 2016, Server 2019, Server 2022
UNIX	Solaris 9以降(SPARC), HP-UX 11i V2以降, AIX 6.1以降
Linux	RHEL4以降など(※)

(※)RHEL4以降あるいはそれに相当するカーネル2.6以降のx86/x64系Linux

## 標準価格

型番	製品名	価格(税抜き)
KD-PRT0521	PDFTOPDF	25万円

## 操作方法

PDFTOPDFは、コマンドラインアプリケーションです。通常のコマンドと同じように、コマンドラインから実行したり、バッチファイルやシェルスクリプトに組み込んだりすることができます。

ここでは、直接コマンドラインから入力して実行する場合の、基本的な操作手順を示します。バッチファイルなどでご利用になる場合は、コマンドラインに入力する代わりにファイルの中に記述してください。

変換を実行するには、次のような形式でコマンドラインに入力します。

```
PDFTOPDF 変換前のファイル名 -O変換後のファイル名
```

-Oは、マイナス記号とアルファベットの「オー」です。大文字でも小文字でもかまいませんが、全角文字は使えません。また、*変換後のファイル名*は空白を空けずに-Oの直後に指定します。*変換前のファイル名*と*変換後のファイル名*に同じものを指定することはできません（-INPLACEオプションを指定する場合を除く）。

たとえば、abc.pdfをdef.pdfに変換するには、次のように入力します（下線部が、入力する部分です）。

```
> PDFTOPDF abc.pdf -Odef.pdf
```

正常に変換できた場合は、次のように表示されて終了し、リターンコード「0」が返されます。

```
PDFTOPDF変換終了
```

エラーの場合は、次のように表示されて終了し、リターンコードとして「0以外の値」が返されます。

```
PDFTOPDF変換エラー
```

この他にオプションを追加することで、各編集機能を使用できます。

## 操作例

例1 a.pdfファイルを出力ファイル名b.pdfで出力

```
> PDFTOPDF a.pdf -Ob.pdf
```

例2 a.pdfファイルを90度回転して、出力ファイル名b.pdfで出力

```
> PDFTOPDF a.pdf -R90 -Ob.pdf
```

例3 a.pdfファイルを無条件に縦向きにして、出力ファイル名b.pdfで出力

（横向き図面は自動的に左方向に90度回転します。縦図面は回転しません。）

```
> PDFTOPDF a.pdf -Ob.pdf -RC
```

例4 a.pdfファイルとb.pdfファイルを結合して、出力ファイル名c.pdfで出力

```
> PDFTOPDF a.pdf b.pdf -Oc.pdf
```

例5 mglist.datの中で指定した複数のPDFファイルをabc.pdfの後に連結し、すべてのページをdef.pdfに出力

```
> PDFTOPDF abc.pdf -MG_LISTmglist.dat -Odef.pdf
```

例6 マルチページファイルの2,4,5,6ページ目を抽出して別のマルチページファイルを作成

```
> PDFTOPDF a.pdf -N2,4-6 -Ob.pdf
```

例7 大量のページを含むマルチページファイルを100ページごとに分割

```
> PDFTOPDF a.pdf -MFILE3,100 -Ob.pdf
```

例8 a.pdfファイルにセキュリティを設定して、出力ファイル名b.pdfで出力

```
> PDFTOPDF a.pdf -ENCRYPT -Ob.pdf
```

例9 a.pdfファイルにテキストを合成して、出力ファイル名b.pdfで出力

```
> PDFTOPDF a.pdf -TXtextdt.txt -Ob.pdf
```

例10 PDF帳票から抽出したテキストをCSV形式で出力

```
> PDFTOPDF a.pdf -T0textout.csv -TCGV -TCDEFsample_tctdef.txt
```

## 実行時のオプション

PDFTOPDFには、変換時に指定できる様々な実行オプションが用意されています。

- ・ 実行オプションは、「-」ではじまります。実行オプションには、大文字と小文字の区別はありません。
- ・ パラメータがある場合は、空白を空けずにオプションの直後に指定します。

(例) オプションが「-O」、パラメータが「file」の場合:

(正) -Ofile

(誤) -O file

- ・ 複数のオプションを同時に指定するときは、それらを空白で区切ります。  
指定する順番は、一部のオプションを除き、処理の内容には影響しません。

(例) 次の2つは同じ意味になります:

(a) -R90 -MX

(b) -MX -R90

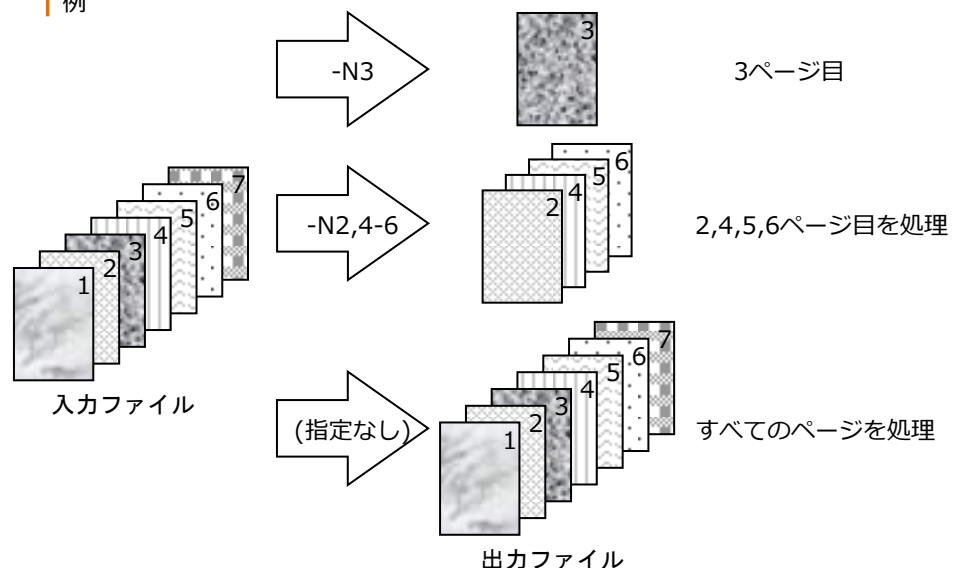
### 入出力ファイル指定に関するもの

- O[filename] : 変換結果を出力するファイル名を指定します。  
たとえば、「-Otest.pdf」と入力すると、test.pdfに出力データが得られます。
- INPLACE : 入力ファイル名と同じファイル名を-Oで指定できるようになります。
- U[in\_atr\_name] : 入力属性ファイル名を指定します。(初期値: pdf\_in.atr)
- Z[out\_atr\_name] : 出力属性ファイル名を指定します。(初期値: pdf\_out.atr)

### マルチページ処理に関するもの

- N[page] : 入力がマルチページファイルの場合、処理するページを指定します。  
次のような形式で任意のページを指定することができます。
- N0 : 全ページを処理(初期値)
  - N3 : 3ページ目のみ処理
  - N3-5 : 3ページ目から5ページ目まで処理
  - N-5 : 1ページ目から5ページ目まで処理
  - N5- : 5ページ目から最終ページまで処理
  - N3,5 : 3ページ目と5ページ目の処理

例



- REORDER[pages] : 指定した順番にページを並べ替えます。「-」でページの範囲を表します。
- REORDER2-,1 : 1ページ目を最後に移動する
  - REORDER1-,1 : 1ページ目を複製して最後に追加する
  - REORDER4-6,1-3,7- : 1~3ページと4~6を入れ替える
  - REORDER1-3,7- : 4~6ページを取り除く
  - REORDER1-3,6-4,7- : 4~6ページだけ逆順にする

-M

: 出力ファイルとして既存のファイルを指定すると、出力ファイルの最後に新しいページとして追加します。

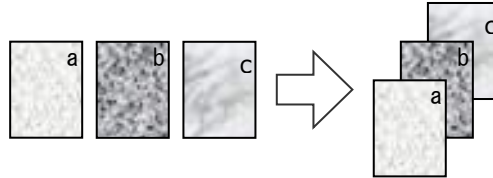
例

```

PDFTOPDF a.pdf -0m.pdf
PDFTOPDF b.pdf -0m.pdf -M
PDFTOPDF c.pdf -0m.pdf -M

```

以上の操作で3ファイル(a.pdf, b.pdf, c.pdf)が1つのマルチページファイル(m.pdf)になります。

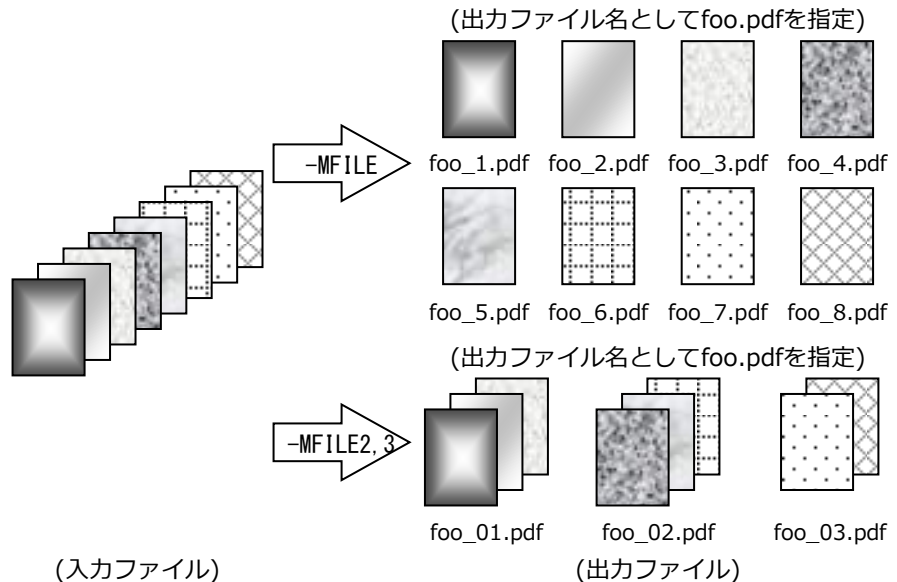


2ファイル以上追加する場合は、-MG\_LISTオプションの方が速く処理できます。

-MFILE[cols,pages]

: 入力がマルチページファイルの場合、指定されたページ数ごとに分割して出力します。各出力ファイル名は、指定した出力ファイル名に番号を付加したものになります。colsにはファイル番号の桁数を、pagesには分割するページ数を指定してください。

例



[infile1] [infile2]

: 入力ファイルを2つ指定すると、指定された順に2つのPDFファイルを結合します。

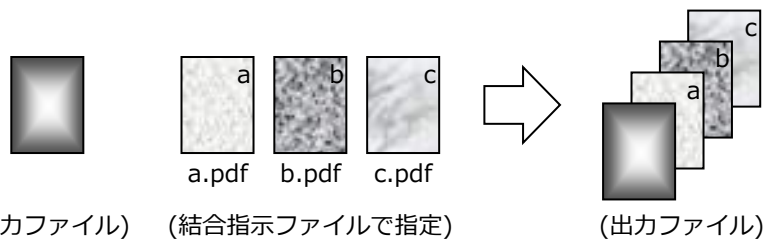
-INSERT[page]

: 2つ目の入力ファイルを挿入する位置を指定します。

-MG\_LIST[list\_file]

: 複数ファイルを結合します。list\_file (結合指示ファイル) に結合するファイルを記述します。

例



-REVP

: ページの順番を逆順に並べ替えます。

-BLANK[pages]

: 指定したページの後ろに白紙のページを挿入します。

-BLANKL[odd\_even]

: ファイルの最後に白紙のページを追加します。

- 1: ファイルのページ数が奇数のときに白紙のページを追加
- 2: ファイルのページ数が偶数のときに白紙のページを追加

## ページの拡大・縮小・回転などに関するもの

- A : 指定した出力サイズに収まるような最大サイズに、縦横比を維持してスケーリングします。出力サイズは、用紙サイズの番号(-P)、1/100mm単位の長さ(-W, -H)のいずれか、または複数を組み合わせて指定します。
- AJ : 指定した出力サイズより大きい場合のみ、そのサイズに収まるように、-Aオプションと同様の処理によって縮小します。サイズの指定方法は-Aオプションの場合と同じです。
- W[width] : 出力水平方向の長さを指定します。(1/100mm単位の値で指定)
- H[height] : 出力垂直方向の長さを指定します。(1/100mm単位の値で指定)
- S[scale] : 水平方向と垂直方向のスケール値を指定します。
- SX[scale\_x] : 水平方向のスケール値を指定します。
- SY[scale\_y] : 垂直方向のスケール値を指定します。
- R[degrees] : ページの回転(単位:度)  
90: 90度回転 180: 180度回転 270: 270度回転
- RC[direction] : 出力時のページの向きが、入力データの向き(縦や横)にかかわらず一定方向になるように、自動的に回転します。directionの値は、次の意味を持ちます。  
0: 入力データが横向きなら左に90度回転、縦向きなら回転しない。  
1: 入力データが横向きなら右に90度回転、縦向きなら回転しない。  
2: 入力データが縦向きなら左に90度回転、横向きなら回転しない。  
3: 入力データが縦向きなら右に90度回転、横向きなら回転しない。
- CL[length] : ページの左側をクリッピングします。(1/100mm単位の値で指定)
- CR[length] : ページの右側をクリッピングします。(1/100mm単位の値で指定)
- CT[length] : ページの上側をクリッピングします。(1/100mm単位の値で指定)
- CB[length] : ページの下側をクリッピングします。(1/100mm単位の値で指定)

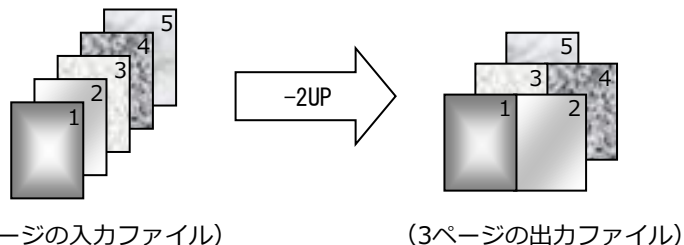
## 用紙サイズの指定に関するもの

- P[paper] : 用紙サイズを番号で指定します。  
0: A0横 1: A1横 2: A2横 3: A3横 4: A4横 5: A5横 6: A6横  
20: A0縦 21: A1縦 22: A2縦 23: A3縦 24: A4縦 25: A5縦 26: A6縦  
11: B1横 12: B2横 13: B3横 14: B4横 15: B5横  
31: B1縦 32: B2縦 33: B3縦 34: B4縦 35: B5縦
- AR : ページの向きに合わせて、-Pオプションで指定した用紙の向きを自動的に判断します。たとえば、ページが縦長なら、-P4でも-P24でもA4縦の意味になります。
- AL : 出力サイズに合わせてセンタリングを行います。

## ページのレイアウト・分割に関するもの

- 2UP : プリンタで印刷する際の2アップのように、2ページを並べて1ページにまとめます。

例



- 2DIV : 1ページを2ページに分割します。

## セキュリティの設定に関するもの

- DECRYPT : セキュリティが設定されていない状態で出力します。  
-ENCRYPT : セキュリティが設定された状態で出力します。

### セキュリティを設定する出力属性ファイルの例

PDF_SECURITY = 70	暗号化レベルの指定
PDF_SECURITY = 51	低解像度のみ印刷を許可
PDF_SECURITY = 54	アクセシビリティを許可
PDF_USER_PWD = User Password	ユーザーパスワード
PDF_OWNER_PWD = Owner Password	オーナーパスワード

- PASSWORDS[*file*] : セキュリティを解除するためのパスワードを複数指定します。*file*はパスワードの情報を記述したファイルのファイル名です。

## テキストの合成に関するもの

- TX[*text\_file*] : 文字列 (テキスト) の合成を行います。*text\_file*は合成するテキストの情報を記述したファイル (テキストデータファイル) のファイル名です。

### テキストデータファイルの例1

1つ目のテキスト	*GROUP	テキストデータ定義の開始
	MOJI_WIDTH = 5.0	文字の幅をmmで指定
	MOJI_HEIGHT = 4.0	文字の高さをmmで指定
	MOJI_THETA = 0.0	文字の回転角度
	TEXT = 横書きテキスト	テキスト
	ORG_X = 10.0	テキスト開始位置x
	ORG_Y = 15.0	テキスト開始位置y
	COLOR_RGB = ff0000	色をRGB値で指定
	ALPHA = 127	透明度を0~255で指定
	MOJI_FONT_NAME = MS ゴシック	フォントを指定
	FONT_MODE = 2	フォントを埋め込む
*END	テキストデータ定義の終了	
2つ目のテキスト	*GROUP	
	FONT_SIZE = 10.0	フォントのサイズをptで指定
	TEXT = 縦書きテキスト	
	POSITION_NO = 3	テキスト開始位置を右上に指定
	MOJI_FONT_NAME = @MS 明朝	フォントを指定 (縦書き)
	FONT_MODE = 1	フォントを埋め込まない
	PAGE_NUMBER = 2-5	
*END		

### テキストデータファイルの例2

1つ目のテキスト	*GROUP	
	FORMAT_CONTROL = 2	TEXTの書式指定文字(%)が有効
	TEXT = %Y/%M/%D (%n/%t)	日付とページ番号を合成
	POSITION_NO = 0	
*END		
2つ目のテキスト	*GROUP	
	TEXT = %3, 5C	CSVの3行目5列目の内容を合成
	POSITION_NO = 3	
*END		

- ATX[*text\_param*] : 合成するテキストの情報をコマンドラインで指定します。*text\_param*には、テキストデータファイルに記述する1行分の内容を指定します。このオプションは複数回指定でき、指定された順番で、合成するテキストの情報が生成されます。

### -ATXオプションで指定する例

```
> PDFTOPDF in.pdf -Oout.pdf -ATX"*GROUP" -ATX"TEXT=テキスト"  
-ATX"MOJI_FONT_NAME=メイリオ" -ATX"ORG_X=10.0" -ATX"ORG_Y=15.0"  
-ATX"*END"
```

-TTCSV[*csv\_file*] : 合成するテキストの内容をCSVファイルで指定します。合成する位置や行番号、列番号などは、-TXオプションで指定するテキストデータファイルの中に記述します。

## イメージの合成に関するもの

-IMG[*img\_file*] : イメージの合成を行います。*img\_file*は合成するイメージの情報を記述したファイル(イメージデータファイル)のファイル名です。  
TIFF, PNG, BMP, JPEGなど多くのフォーマットに対応しています。

### イメージデータファイルの例

1つ目のイメージ	<pre>*GROUP IMG_NAME = sample1.tif ORG_X = 10.0 ORG_Y = 15.0 ALPHA = 128 *END</pre>	<p>イメージデータ定義の開始 イメージファイル名 表示する位置x 表示する位置y 透明度を指定 イメージデータ定義の終了</p>
2つ目のイメージ	<pre>*GROUP IMG_NAME = sample2.png ORG_X = 40.0 IMG_WIDTH = 20.0 IMG_HEIGHT = 15.0 IMG_THETA = 0.0 TRANS_RGB = ff0000 *END</pre>	<p>表示する幅をmmで指定 表示する高さをmmで指定 表示する回転角度 透明として扱う色を指定</p>

## バーコードの合成に関するもの

-BC[*barcode\_file*] : バーコードの合成を行います。*barcode\_file*は合成するバーコードの情報を記述したファイル(バーコードデータファイル)のファイル名です。

### バーコードデータファイルの例

1つ目のバーコード	<pre>*GROUP BAR_KANJI_CODE = SJIS BAR_CODE_KIND = CODE39 BAR_ORG_X = 20.0 BAR_ORG_Y = 20.0 BAR_TEXT = 200601 *END</pre>	<p>バーコードデータ定義の開始 漢字コード バーコードの種類(CODE39) 表示する位置x 表示する位置y CODE39に設定する内容 バーコードデータ定義の終了</p>
2つ目のバーコード	<pre>*GROUP BAR_CODE_KIND = QR_CODE BAR_QR_LEVEL = H BAR_ORG_X = 270.0 BAR_ORG_Y = 190.0 BAR_TEXT = 12345漢字 *END</pre>	<p>バーコードの種類(QRコード) QRコードの誤り訂正レベル  QRコードに設定する内容</p>

-BTCSV[*csv\_file*] : 合成するバーコードの内容をCSVファイルで指定します。合成する位置や行番号、列番号などは、-BCオプションで指定するバーコードデータファイルの中に記述します。

## ページの合成に関するもの

-MERGE[*merge\_file*] : 他のPDFからページを抽出して、任意のページに合成します。*merge\_file*は合成するページの情報を記述したファイル(ページ合成設定ファイル)のファイル名です。

### ページ合成設定ファイルの例

<pre>*GROUP PDF_NAME = sample1.pdf PDF_PAGE = 1 PAGE_NUMBER = 1-3 ORG_X = 10.0 ORG_Y = 15.0 PDF_SCALE = 2.0 PDF_THETA = 90.0 ALPHA = 128 *END</pre>	<p>ページ合成設定定義の開始 合成するPDFのファイル名 抽出するページの番号 合成先のページ 表示する位置x 表示する位置y 表示する倍率 表示する回転角度 透明度を指定 ページ合成設定定義の終了</p>
---	--

## テキストの抽出に関するもの

-TO[*textout\_file*] : 文字列（テキスト）情報を取り出して、テキストファイルとして*textout\_file*に出力します。結果のファイルに出力する情報の種類を選択することが可能です。

抽出結果の例 テキストのみ出力する場合

```
Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社
:
```

-TCSV : -TOオプションで出力する形式をCSV形式にします。

-TCDEF[*tcdef\_file*] : CSV形式で出力する項目などを定義します。*tcdef\_file*は項目などの情報を記述したファイル（CSV抽出設定ファイル）です。

CSV抽出設定ファイルの例

```
*GROUP                                レコードの定義の開始
REPEAT_COUNT_Y = 3                    抽出する領域を縦に繰り返す回数
REPEAT_OFFSET_Y = -10.0                領域を下方方向に移動する量
*END                                    レコードの定義の終了

*GROUP                                フィールドの定義の開始
FIELD_INDEX = 1                        フィールドを出力する順番: 1
TEXT_AREA = 10.0, 50.0, 60.0, 10.0    PDF帳票の①の領域
*END                                    フィールドの定義の終了

*GROUP                                フィールドを出力する順番: 2
FIELD_INDEX = 2                        PDF帳票の②の領域
TEXT_AREA = 70.0, 50.0, 60.0, 10.0
*END
```

対象とするPDF帳票の例

伝票番号: 12345		受付日: 2017/05/18	
型番	数量	金額	
AAA-0001 ①	1	②	¥1,000
AAA-0002	2		¥2,000
AAA-0003	3		¥3,000

抽出結果の例

```
"AAA-001", "¥1,000"
"AAA-002", "¥2,000"
"AAA-003", "¥3,000"
```

## イメージの抽出に関するもの

-IMX[*imx\_file*] : イメージの抽出を行います。*imx\_file*はイメージを抽出する設定を記述したファイル（イメージ抽出設定ファイル）のファイル名です。抽出したイメージを保存するファイル名やフォーマットを設定します。また、イメージのサイズや解像度、カラースペースなどの情報も取得できます。

## 仕分けに関するもの

-ASSORT[*assort\_file*] : 指定した条件に従ってファイルを仕分けします。*assort\_file*は仕分けの条件を記述したテキストファイル（仕分け指定ファイル）です。

仕分けの指定により、次のようなことができます。

- ・先頭のページの用紙サイズによりPDFを配置するディレクトリを決定
- ・用紙サイズごとにPDFをページ分割
- ・特定のキーワードを含むページだけ抽出
- ・特定の用紙サイズのページだけスケーリング
- ・ページから抽出したキーワードを使ってPDFのファイル名を決定



## フォントの情報に関するもの

-FONTSUB[font\_file] : PDFの中のフォントを別のフォントに置き換えます。font\_fileは置き換えるフォントの情報  
を記述したファイル（フォント置き換え設定ファイル）のファイル名です。

フォント置き換え設定ファイルの例

1つ目の定義	}	*GROUP	置き換えパターン定義の開始
		OLD_FONT_NAME = MS-Mincho	置き換えられるフォント
		OLD_FONT_NAME = MS-PMincho	
		NEW_FONT_NAME = MS Pゴシック	置き換えるフォント
		*END	置き換えパターン定義の終了
2つ目の定義	}	*GROUP	
		KEEP_FONT_NAME = HGMaruGothic	置き換えないフォント
		NEW_FONT_NAME = MS ゴシック	
		*END	

-FONTX[*csv\_file*] : PDFの中からフォントの情報を取り出して、CSV形式で*csv\_file*に出力します。

-FONTEMB[*mode*] : PDFの既存のテキストに対してフォントの埋め込み、または削除を行います。  
0: 埋め込みフォントを削除して埋め込みでないフォントにする  
1: 埋め込みでないフォントを埋め込みフォントにする  
2: 既存の文字を図形に変換して埋め込む

## しおりの設定・抽出に関するもの

-STX[*stx\_file*] : しおりを設定します。stx\_fileは設定するしおりの情報を記述したファイル（しおり設定  
ファイル）のファイル名です。

しおり設定ファイル（CSV形式）の例

```
1, 1, I. はじめに
2, 1, II. 実行例
5, 1, III. 操作説明
5, 2, "◇ ""入出力ファイル指定""に関するもの"
6, 2, "◇ ""拡大, 縮小, 回転など""に関するもの"
```

-STCODE[*encode*] : しおり設定ファイル（CSV形式）の文字コードを指定します。  
0: EUC 1: シフトJIS 2: JIS  
3: UTF-16(Big Endian) 4: UTF-8 5: UTF-16(Little Endian)  
6: UTF-16(Big Endian BOM) 7: UTF-16(Little Endian BOM)

-BMOUT[*csv\_file*] : 入力ファイルのしおりの情報を取り出して、CSV形式で*csv\_file*に出力します。

## 添付ファイルの操作に関するもの

-EFL[*efl\_file*] : PDFにファイルを添付します。efl\_fileは添付するファイルの情報を記述したCSVファイ  
ル（添付用設定ファイル）のファイル名です。

添付用設定ファイルの例

```
sample.jpg
サンプル.TIFF
""入出力ファイル指定""に関するもの.docx"
```

-EFX : PDFに添付されているファイルを抽出します。

-EFXDIR[*efx\_dir*] : 抽出した添付ファイルを保存するディレクトリを指定します。

## バッチ処理に関するもの

-BATCH : バッチファイルを使って、複数ファイルを一括処理します。

## その他

- QS[*info\_file*] : 入力ファイルのプロパティ情報を取り出して、テキストやCSVとして*info\_file*に出力します。*info\_file*を省略すると、情報の出力先は標準出力になります。
- COMPRESS : データ中のイメージを除くストリームデータを圧縮します。
- DECOMPRESS : データ中のイメージを除くストリームデータを展開します。
- FDF[*fdf\_file*] : FDFファイルから注釈とフォームフィールドの値を取り出して、PDFに取り込みます。
- FDXOUT[*fdxout\_file*] : 入力ファイルの注釈やフォームフィールドの値を取り出して、FDFファイルとして*fdxout\_file*に出力します。
- ANEDT[*anedt\_file*] : 注釈を編集します。*anedt\_file*は、編集する内容を記述したテキストファイルです。
- ANDEL : 注釈やフォームフィールドを削除します。
- MONO : PDFを単色に変換します。色の名称またはRGB値で、変換する色を指定します。
- MONOMODE[*mode*] : -MONOオプションでPDFを単色に変換する方法を指定します。
- PDFWEB : PDFをリニアライズ（Web最適化）された状態で出力します。
- ANFIX : 注釈を通常のテキストや図形に変換してページに貼り付けます（注釈の固定化）。
- NOPROG : 処理の進行状況を示す「PDF/PDF変換処理 ???% 終了」という行を表示しません。
- NODISP : 実行時のメッセージを画面に表示しません。ただし、Copyright文は表示されます。
- LOG[*log\_file*] : ログファイルを作成します。エラー発生時のみ作成されます。
- RIREKI[*rireki\_file*] : 履歴ファイルを作成して変換結果についての情報を出力します。
- EM[*email\_file*] : メール送信用の環境設定ファイル名（初期値: eml\_out.atr）
- MUTEX [*timeout*] : 多重起動した場合、他のプロセスが終了するまで待ってから処理されます。
- Q : ヘルプメッセージ
- QV : 実行ファイル名とバージョン情報を表示します。

## 制限事項

### 入力するPDFファイルの制限事項

次のPDFファイルは入力ファイルとして指定できません。

- ・ 電子署名の付与されたPDF
- ・ PDF 2.0の範囲を超える、アプリケーション独自の拡張が使用されたPDF

PDFポートフォリオは通常のPDFファイルとして処理されます。

### 出力するPDFファイルの機能

次のPDFの機能は、出力ファイルで有効となりません。

- ・ Object Streamを使用した圧縮
- ・ 論理構造（タグ）

### 抽出するイメージの圧縮形式

次の圧縮形式が使用されているイメージは、PDFから抽出することができません。

- ・ JPXDecode(JPEG 2000)のうち拡張機能が使用されているもの  
JBIG2Decode(JBIG2)（UNIX, Linux版のみの制限）



カーネルコンピュータシステム株式会社  
<https://www.kernelcomputer.co.jp>

パッケージ販売部  
〒221-0056 横浜市神奈川区金港町6-3横浜金港町ビル  
TEL 045-442-0500  
FAX 045-442-0501